



# 小田小だより

平成29年11月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 Tel.045(775)3011  
<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/> 横浜市立小田小学校

## 秋の夜長には・・・

～本に恋する季節に思いを寄せて～



学校長 木村 昭雄

今から千年も前ですが、清少納言は『枕草子』のなかで、秋は夕暮れが一番よいと書いています。当時とは風情もずいぶん違いそうですが、今でも秋は夕暮れ時がすてきだと思います。この頃は秋も深まりましたから、高い青空が夕焼けで赤く染まり夕日が家々の向こうにあつという間に沈むのを見ることができます。すると家々の明かりに誘われて「早く家に帰って、秋の夜長を楽しもう。」という気持ちになります。

秋の夜長の楽しみ方はたくさんありますが、今日は「読書」をお勧めしたいと思います。情報化、デジタル化の時代。欲しい情報はすぐに手に入り、わざわざ文字を読まずとも、鮮明な映像によって遠くの出来事さえ容易に把握できます。このような生活空間に居続ければ、人の想像力が貧しくなることが予想されます。この状況下で、ある識者はこれからの人間にとって想像力こそ大事だと主張します。それ故、子育て真っ最中のお父様、お母様方に「読書」をお勧めしたいのです。その理由を二つ書かせていただきます。

一つ目の理由は、親としての人間性や想像力などの心の耕しのためです。親はだれしも、子どもには、心豊かな人間になってほしいと願います。そのためにも親自身が心豊かでありたいものです。豊かな人間性を育むものは体験です。読書は体験です。想像の翼を広げて本の中の世界を旅することも豊かな体験なのです。私たちが育てようとしている豊かな人間とは、知識ばかりが豊かな人を指すわけではなく、人の思いや願いを感じることができ、心をもつ人間であると考えます。喜び、辛さ、迷い、悲しさ、本当の幸せ・・・というように人の思いや願いを想像することができるということです。本を読むことで、登場人物に自分を投影したり、憤りを覚えたりと感情が揺さぶられます。困難に直面していたときに同じような境遇の話を読んだりすると、自分の甘さを内省したり勇気づけられたりということもあります。このように、読書は、想像力によってものの見方・感じ方を豊かにしてくれます。

もう一つの理由は、子どもとのふれあいです。子どもは親の背中を見て育つと言いますが、読書する親の姿もまた子どもには見てほしいなと思うのです。本の中の世界に入り込む親の姿を、です。子どもの頃の私は、本を読んでいる父と母の横顔が大好きでした。いつもは厳格なのに、本を読みながらそっと目頭を押さえていた父の横顔。感動した本を読むといつも傍に来て、泣きながら感想を聞かせていく母。今でも懐かしく思い出します。子どもと一緒に同じ本を読む体験や読み聞かせは、子どもの成長過程にはぜひともあってほしいと願っています。親の肉声を通して広がる想像の世界は、ネット配信される映像よりも間違いなく子どもの心に届き、栄養となります。わくわくする主人公の活躍、どうしようもなく涙が出てしまう結末など、子どもと一緒に同じお話の世界を旅して、同じ感情を味わうことで、親子のつながりはきっと深まっていきます。お父様の「かわいそうだね」という感想を聞いて、「お父さんも僕と同じように感じているんだ」という実感と信頼感で、子どもは人の心を学びます。これは、人が豊かに育つために欠かせない体験です。どうか、読書をするすてきなお父様、お母様の姿を子どもに見せてあげてください。

「本と旅する 本を旅する」4年前の読書週間の標語です。10月27日～11月9日は第71回秋の読書週間です。そして今年の標語は、「本に恋する季節です！」本を手にしてページをめくるときのわくわくした気持ちは子どもも大人も変わりません。この秋、どうかたくさんすてきな本との出会いがありますように・・・。一度開けば別世界へ。本はお手軽な魔法のツールです。いつでもどこでも、自由に巡ることのできる本の世界を旅するすてきな秋となりますように・・・。